

R7年度及び第二期中期目標期間 業務実績報告書 概要

■ 年度計画で定めた数値指標の10項目中9項目でA評価以上を達成するなど、着実に実績を残すことができた

【評価基準】

セグメント	計画構成項目	目標値	R6実績	確定値	達成率	評価
研究開発	1－① 成果創出実績件数	527	685	723	137.2%	S
	学会発表等件数	364	511	523	134.3%	
	論文等掲載件数	119	133	163	137.0%	
	特許出願等件数	42	38	34	81.0%	
	評価新規メニュー数	2	3	3	150.0%	
	1－② 成果普及実績件数	83	126	111	133.7%	S
	橋渡し共同研究等件数	79	109	105	132.9%	
	ライセンス契約等件数	4	17	6	150.0%	
技術支援	2－① 新規利用者件数	1,040	1,589	1,676	161.2%	S
	2－② 技術支援件数	6,746	5,829	5,671	84.1%	B
	試験計測実施件数	6,568	5,677	5,483	83.5%	
	技術開発受託件数	178	152	188	105.6%	
事業化支援	3－① 製品化事業化支援実績件数	34	54	57	167.6%	S
	製品化事業化に貢献する支援件数	19	38	39	205.3%	
	事業化支援事業実施件数	5	8	8	160.0%	
	製品化支援事業実施件数	10	8	10	100.0%	
	3－② デジタル技術支援件数	8	25	18	225.0%	S
人材育成	4－① 新規人材研修講座等実施件数	6	24	14	233.3%	S
	4－② 理科実験室・イベント等実施件数	110	173	144	130.9%	S
	理科実験室実施件数	104	167	135	129.8%	
	科学イベント実施件数	6	6	9	150.0%	
連携交流	5－① 連携機会創出件数	40	83	92	230.0%	S
	5－② 技術情報オンライン提供件数	20	29	19	95.0%	A

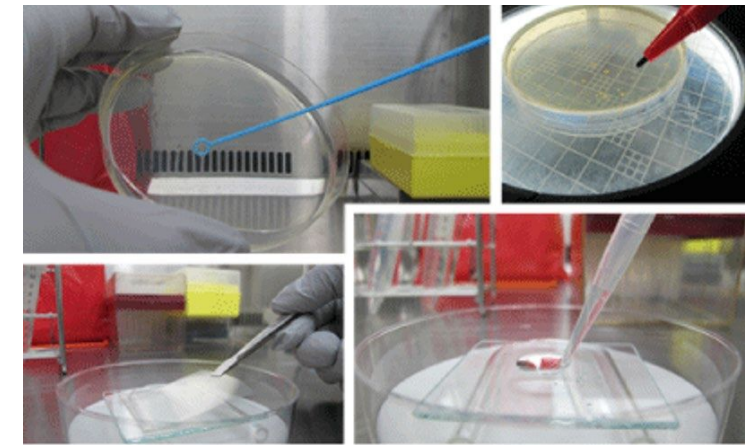
評価	区分	基準
S	計画を大幅に上回って達成	115%以上
A	計画を達成	95～115%
B	計画を概ね達成	80～95%
C	計画を下回っており改善の余地あり	60～80%
D	計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要	60%未満

■ 以下では項目ごとに概要を説明

1 ～ 5	5 事業セグメントの実績について
6 ～ 7	業務運営の改善及び効率化、その他について

1 研究開発セグメント（R7年度実績）

- プロジェクト実用化実証のうち2テーマが企業による実証フェーズへ進展、研究成果の出口が複数できた
 - 「次世代半導体用エコマテリアル」 ➡ 企業コンソーシアム形成に向けた取組開始
 - 「毛髪再生医療実証」 ➡ 企業へ技術移転し臨床展開および育毛/養毛効果検証の評価受託
- 先進的技術や創薬のためのスクリーニング技術や評価法を開発研究し、2件の評価メニューを開発
 - ➡ 「新型コロナウイルスを用いた薬剤スクリーニング評価」
 - ➡ 「繰返し除菌性評価」
- 実中研・川崎市と共同で申請した厚労省の補助金を活用し、再生・細胞医療製品評価機能を強化 ➡ 「KISTEC Bio Open Lab.」を整備



繰返し除菌性評価試験イメージ

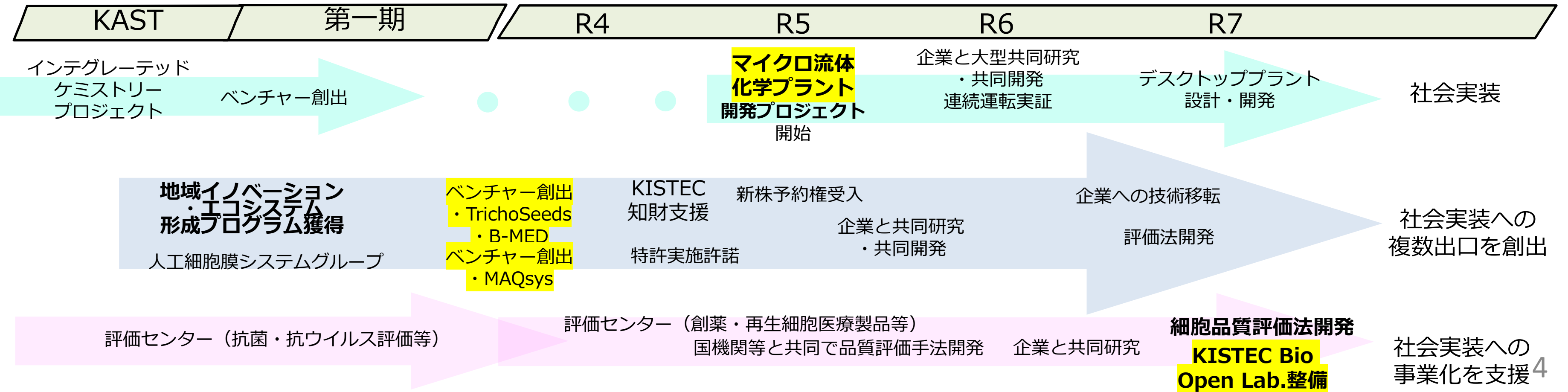
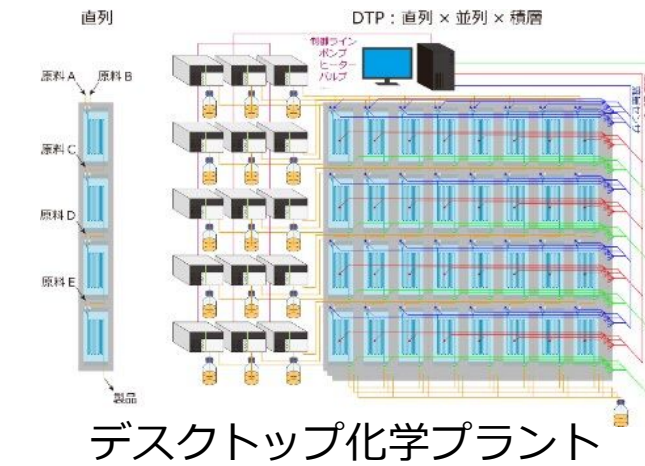


Bio Open Lab.

【成果創出実績件数】 723件（目標527件）、 【成果普及実績件数】 111件（目標83件）

1 研究開発セグメント【第二期中の実績】

- 「マイクロ流体化学プラント開発」プロジェクトで、企業との大型共同開発研究を推進し社会実装を実現
- 文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」で生み出したベンチャー2社ほかの社会実装を支援
- 殿町支所の再生・細胞医療製品評価機能強化のため、評価法開発研究を進めるとともに、外部資金を導入して人材育成・製品開発支援拠点「KISTEC Bio Open Lab.」の整備を進めた



2 技術支援セグメント（R7年度実績）

- 技術支援Webサイト「KISTEC CONNECT」と連携した支援業務管理システムにより、顧客情報管理（U R M）を進め、利用者への対応の信頼性及び利便性の向上を進め、試験計測や技術開発受託を推進
- 神奈川R&D推進協議会企業向けの見学相談会などにより、新たな利用者の獲得に取り組んだ
 - ☞ 材料の微細構造解析の受注などへつながった
- ソリューション事業制度の試行を開始し、強みをP Rする営業活動を行い、3件のソリューション提供を実施
- 外部機関の補助制度も利用し機器整備を進め、将来KISTECの強みとなる技術分野の強化を進めた

見学会



【技術支援による製品化事例】

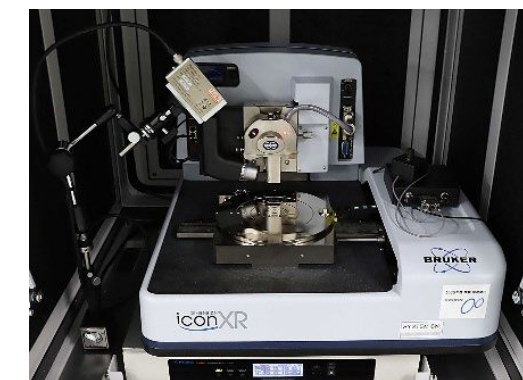


電力可視化システムの
デザイン支援



ハンドクリーム
の開発支援

走査型プローブ顕微鏡



（JKA補助金活用）

【新規利用者件数】 1,676件（目標1,040件）、 【技術支援件数】 5,671件（目標6,746件）

2 技術支援セグメント【第二期中の実績】

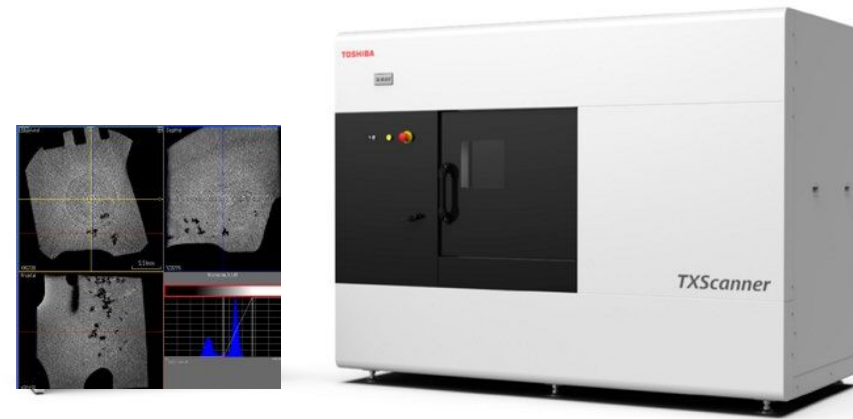
- 第二期を通じ技術支援業務のデジタル化に取り組み、業務管理体制の整備やサービスの向上を図った
- 利用者ニーズの高いX線CT等の機器を整備し、技術支援の強化と支援サービスの向上を図ると共に、経済情勢を踏まえた適正な料金設定の仕組みを構築し、第一期から継続して高い収入を確保

R4年度導入 冷熱衝撃試験機

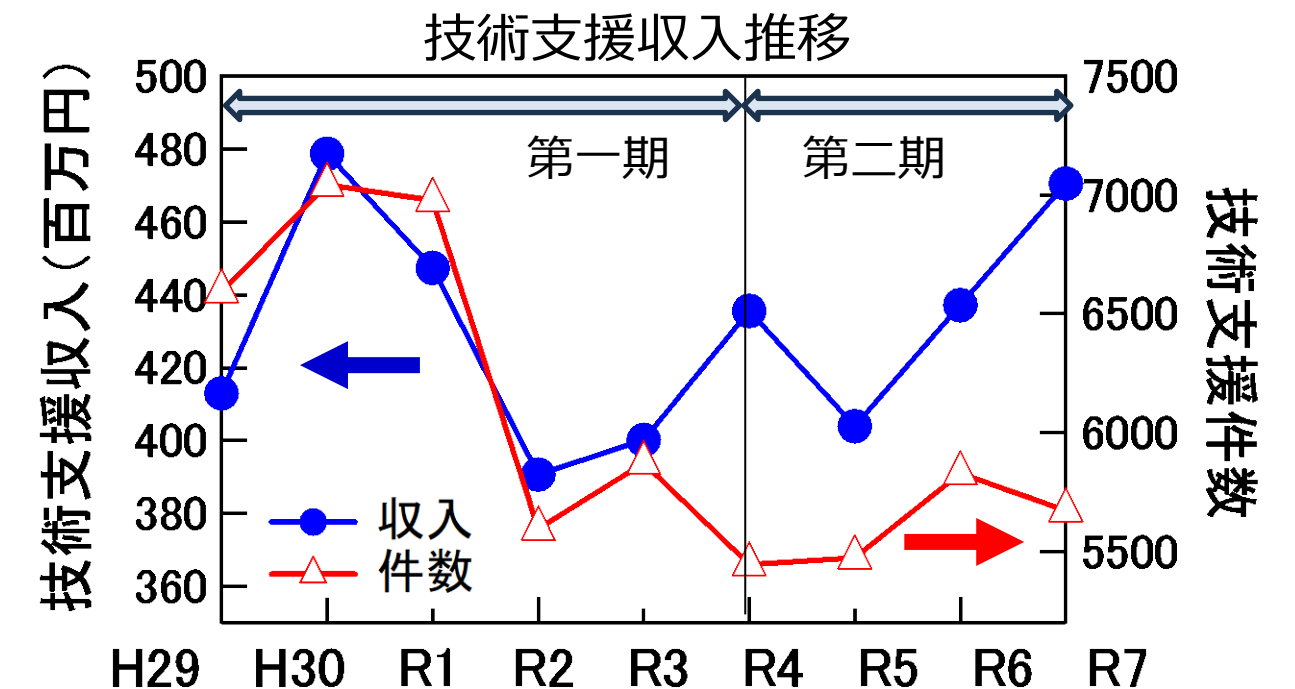


R7年度実績 39件、5,083千円

R5年度導入 高出力高精細X線CT装置



R7年度実績188件、23,127千円



主な新規導入機器

R4

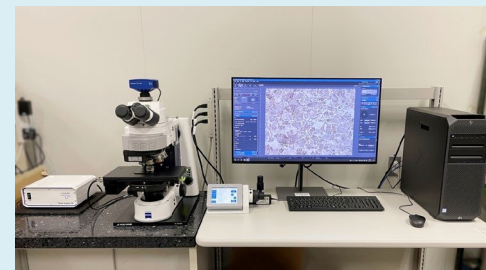
R5

R6

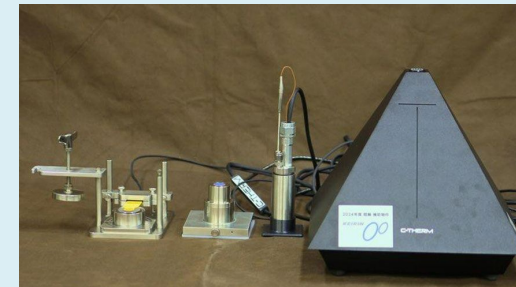
R7



- ・ 冷熱衝撃試験機
- ・ 吸音率測定装置
- ・ レーザー回折粒度分布計
- ・ ガスクロマト質量分析



- ・ 高出力高精細X線CT装置
- ・ 金属顕微鏡
- ・ 平面曲げ試験機
- ・ ガス・水蒸気透過度測定装置



- ・ 熱伝導率測定装置
- ・ 3Dデジタイザ
- ・ FTIR
- ・ 超音波探傷システム



- ・ 走査型プローブ顕微鏡
- ・ 微小部蛍光X線分析装置
- ・ 赤外分光放射計測装置
- ・ 疲労試験機

3 事業化支援セグメント（R7年度実績）

- 生成AI活用促進事業で新たなビジネス、サービス等の付加価値創出を支援
 - ☞ 自然言語による誘導が可能な屋外対応型自立走行搬送ロボット開発支援



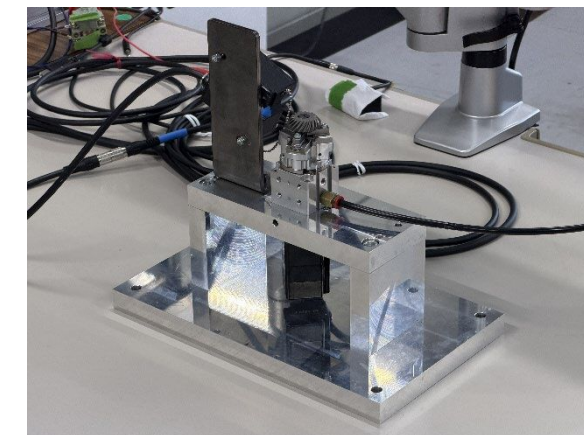
自立走行搬送ロボット

- 次世代事業創出デザイン支援事業で、企業とデザイン事業者とのマッチングなども含めた、総合的な開発支援とフォローアップを実施



ロボット歯ブラシ

- 事業化促進研究で、事業性の高い課題の共同研究を実施
 - ☞ スパイラルギヤのインライン自動検査装置の開発支援



試作自動検査装置

【製品化事業化支援実績件数】 57件（目標34件）、【デジタル技術支援件数】 18件（目標8件）

3 事業化支援セグメント【第二期中の実績】

- 県内中小企業の実情に応じた生成AI導入・活用やIoT、3D試作加工などにより、試作開発の期間短縮などを支援
- さまざまな支援メニューを通じて、中小企業等の事業化に向けた総合的な製品化支援（4年間で169件）により、数多くの製品化（4年間で34件）に貢献した。
- 評価法開発では、ライフサイエンス系性能評価（6件）、太陽電池性能評価（1件）、高信頼性セラミックス評価（3件）の評価メニューを創出・提供した他、国際標準化へ向けた取り組みを実施

製品開発支援事例

R4

R5

R6

R7

高機能ポーラスチャック



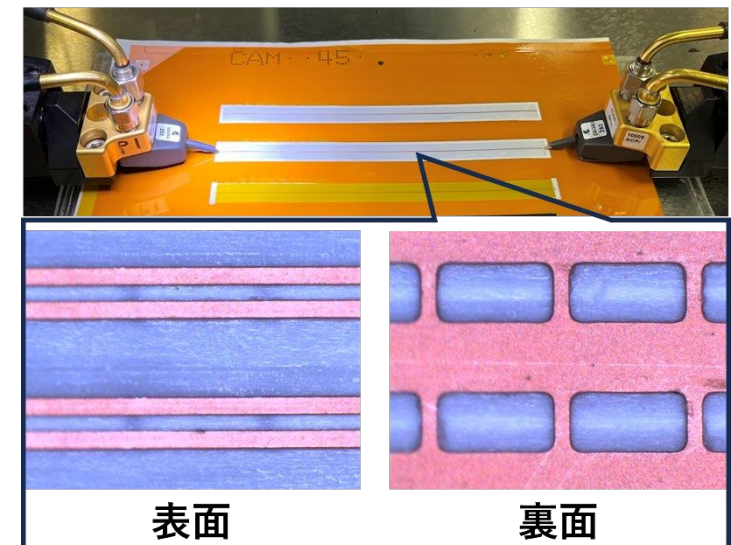
マイクロディンプル抗菌加工品



レーザー測長システム

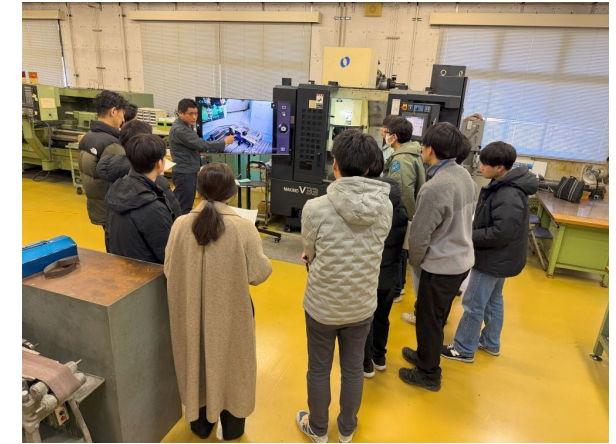


高速伝送向けフレキシブルプリント基板



4 人材育成セグメント（R7年度実績）

- 企業の技術者向け研修として、新規講座14件を含む67件の講座を実施
 - ☞ 技術部の強みである分析・計測技術の実習と外部講師による講義を組み合わせた「幾何公差と加工・測定セミナー」などを新設
- 科学技術理解増進事業では、多数の児童・生徒を対象に工夫をこらした実験教室やイベントを実施したほか、異なる層を対象とした新たな取組も実施
 - ☞ 教職員を対象とした『なるほど！体験出前教室 夏休み屋台村』
 - ☞ 教職課程を履修する大学生が講師となつての理科実験室『実験秋祭り』
- 理科実験室で講師の大学教授と実施した教育活動に関する共著論文が、国際的な微生物学誌『FEMS Microbiology Letters』に掲載



「幾何公差と加工・測定セミナー」実習



大学生が講師となった「実験秋祭り」

【新規人材研修講座等実施件数】 14件（目標6件）

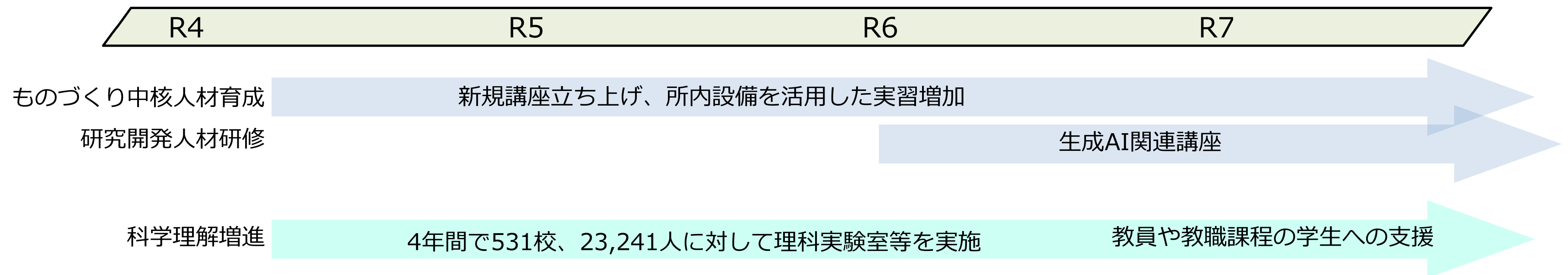
【理科実験室・イベント等実施件数】 144件（目標110件）

4 人材育成セグメント【第二期中の実績】

- 生成AIの活用など社会ニーズに応える講座や、所内設備を活用した実習など、新規講座を数多く立ち上げ（4年間で63件）、カリキュラムの充実に取り組んだ
- 県内の小中学校の児童生徒の科学技術理解増進を図った
 - 👉 4年間で531校、23,241人に対しての理科実験室やサイエンスサマーなどを実施
- 教育の担い手への支援の取り組みを拡充し、教員の卵から現役教員まで一貫した支援を実施
 - 👉 教職課程を履修する大学生を講師にした理科実験室や、学校教員のためのイベントを実施



理科実験イベント



5 連携交流セグメント（R7年度実績）

■ 神奈川R&D推進協議会において海老名本部で「共創推進交流部会」を開催

- ☞ KISTECが新たに取り組むソリューション提供を
ポスターセッションで紹介し利用促進へ



ポスターセッション

■ かながわ産学公連携推進協議会（CUP-K）において大学技術シーズ発表会などを開催

- ☞ 10件の技術コーディネート、受託研究

■ 神奈川県、神奈川R&D推進協議会、TAMA協会、KIPと連携し「技術連携交流会」を開催

- ☞ 県内企業等に対して16件の技術マッチング

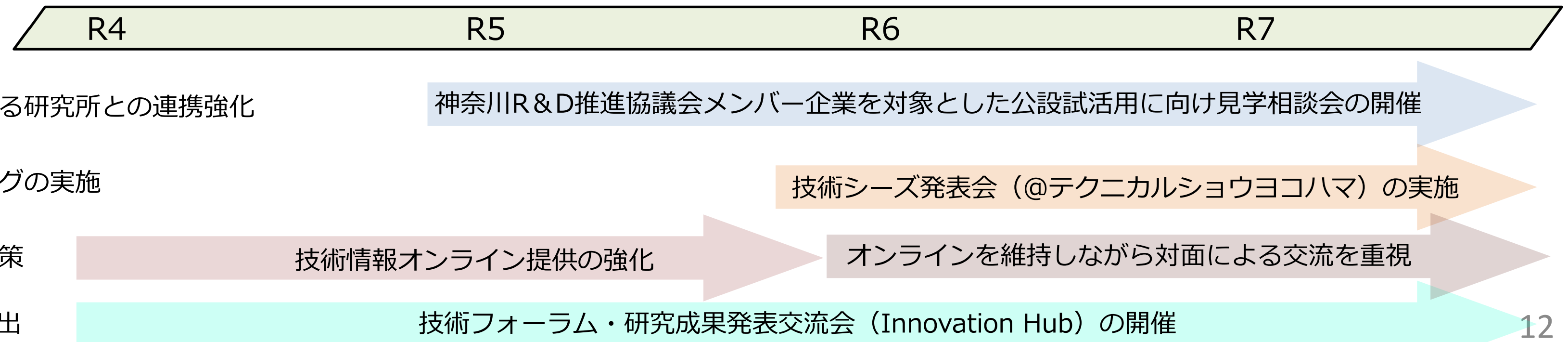
【連携機会創出件数】 92件（目標40件）、 【技術情報オンライン提供件数】 19件（目標20件）

5 連携交流セグメント【第二期中の実績】

- 「公設試活用に向けた見学相談会」を開催し企業との連携を深め、KISTECの利用を促進
- CUP-K、神奈川R&D推進協議会、TAMA協会、KIP等と連携し、企業間の技術マッチングを実施
- TKF参画の4機関（神奈川、東京、埼玉、千葉）共同でJST主催の新技术説明会を開催し、成果を発信



技術シーズ発表会（CUP-Kと連携）



6 業務運営の改善及び効率化について（R7年度実績）

- 理事長直轄の改革推進室を新設しKISTECの将来に向けた改革をスタート
- 若手研究職員の研究力向上のため、理事長による研究力育成講座『北森塾』を実施
- 所内事務の電子化・効率化を図ったほか、外部委託を活用することで事務処理を効率化
- 競争的資金の獲得に積極的に取り組み、外部機関とも連携し多くの申請を行い、約11.3億円（令和6年度約8.7億円）の資金を獲得した

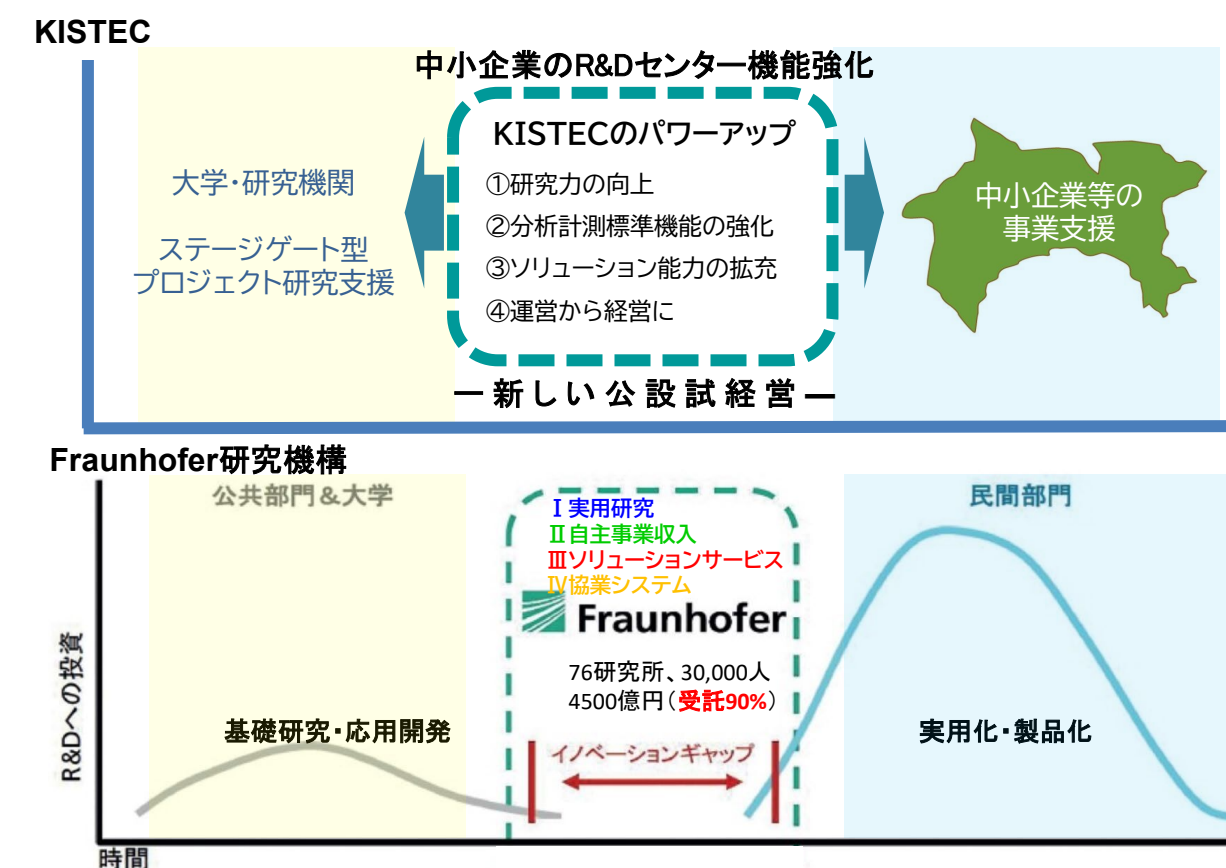
6 業務運営の改善及び効率化【第二期中の実績】

■ 下町のフラウンホーファー活動

☞ R6年度に設置した会議体で4つの戦略を立案し、
R7年度には改革推進室を設置し所内改革を推進

■ 専門知識を有する職員の確保に向け、法人説明会やインターンシップ、近隣大学等での就職説明会、就活サイトの積極的な活用などを行い、優秀な人材の確保に努めた

■ LTE接続可能な業務PCの導入、電子決裁システムや技術支援業務システム等各種クラウドサービスの導入、所内ネットワークの再構築など、業務運営・事務処理の効率化を進めた



下町のフラウンホーファー活動イメージ

7 その他業務運営に関する重要事項（R7年度実績）

- コンプライアンスの推進及び徹底を図るためコンプライアンス推進委員会を年4回開催した他、全ての役職員を対象として「コンプライアンス研修・研究倫理教育」を実施し、効果測定を行った
- 施設の維持管理については、修繕実施計画に基づく改修工事の実施のほか、予期せぬ故障のため電源引込みケーブル交換工事を実施するなど迅速かつ適切に対応し、施設の長寿命化を推進
- 広報については、施設公開デー、技術交流フォーラム（41回）、外部広報媒体への出稿、展示会への出展などを通じ、KISTECの保有技術や研究成果を発信



展示会出展



施設公開デー

7 その他業務運営に関する重要事項【第二期中の実績】

- 施設等の有効活用のため、修繕実施計画に則り計画的に実施するとともに、巡回点検報告や職員提案を集約し、優先度に応じて修繕を実施し適正な維持管理に努めた
- 隣接する小学校との地域交流事業や社会福祉法人を通じた障害者の就労の場の提供など、地域共生へ貢献
- 技術情報オンライン提供件数を数値目標に掲げ、HPやメルマガ配信に加えて、技術交流フォーラムのハイブリッド開催、SNSの活用など、多角的なチャネルを活用し、法人の認知度向上や新規利用者の拡充を図った



隣接小学校の子供たちによるマリーゴールドの植栽



令和7年度 業績評価（小項目）一覧



小項目 番号	中期・年度計画 項目名	数値目標		R7小項目 自己評価	R4-R8 見込み評価	【各年度の県評価】		
		項目	実績			R4	R5	R6
1	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 新たな成長産業の創出と社会課題の解決に向けた研究開発	成果創出実績件数	S	S	S	S	S	S
		成果普及実績件数	S					
2	2 県内企業等の競争力の強化を図る技術支援 (1) 技術相談 (2) 試験計測・技術開発	新規利用者件数	S	A	A	A	A	A
		技術支援件数	B					
3	3 県内企業等の製品及びサービスの開発並びにその事業化に係る支援 (1) 開発の各段階に応じた総合的な一貫支援	製品化事業化支援実績件数	S	S	S	S	S	A
4	(2) 成長分野への参入支援	デジタル技術支援件数	S	S	S	S	S	A
5	4 イノベーションを推進する人材の育成 (1) 企業人材育成	新規人材研修講座等実施件数	S	S	S	S	S	S
6	(2) 科学技術理解増進	理科実験室・イベント等実施件数	S	S	S	A	S	S
7	5 オープンイノベーション等を推進する連携交流 (1) シーズ育成に向けた研究開発における連携交流 (2) 企業のイノベーション創出を推進する技術・事業化支援における連携交流	連携機会創出件数	S	S	S	S	S	A
		技術情報オンライン提供件数	A					
8	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 効果的・効率的な組織運営	—	—	A	A	A	A	A
9	2 効果的・効率的な人事制度の運用	—	—	A	A	A	A	A
10	3 効果的・効率的な業務運営	—	—	A	A	A	A	A
11	第3 財務内容の改善に関する事項 1 収入の確保	—	—	A	A	A	A	B
12	2 財務運営の効率化	—	—	A	A	A	A	A
13	第9 その他業務運営に関する重要事項 1 社会的責任	—	—	A	A	A	A	A
14	2 施設等の有効活用	—	—	A	A	A	A	A
15	3 広報の強化	—	—	A	A	A	A	A